

# PRÊT A PORTER

山 本 富 佐 子

## 序

### I プレタ・ポルテの発祥と実際 一主としてフランスに於ける一

- プレタ・ポルテ発祥の背景
- プレタ・ポルテと云う言葉
- プレタ・ポルテの繁栄

### II 我国に於けるプレタ・ポルテ

- (i) サイズについて
- (ii) 対象について
- (iii) 特性について

### III 服飾史に於けるプレタ・ポルテのもつ意義

- (i) 服飾史を形成するもの
- (ii) プレタ・ポルテが決定づけたもの

## 結び

## 序

これからは、既製服の時代だ。と云われています。それは世界の繊維服飾界の情況判断の上に立って、日本の今後の動向を予測した言葉であり、それはパリモードに盲目的な追従をしていた日本が、急にあわただしく、情況判断を余儀なくされた結果生じた言葉で、むしろ、こうした、これからは云々と言った実感は、日本に於てよりも、モードの国、フランスに於て、はるかに大きいのではないのでしょうか。その情況判断の基準となるのがアメリカです。アメリカでは、既に、現在が既製服の時代です。これからは云々なのではありません。アメリカが、そうした既製服の時代を、他のいかなる国よりもいち早く迎えたことは、無論、それなりの理由と必然性が有ります。

日本を含めて他の国々が、さあこれからと云々する裏には、それ相当の基盤と条件があるのです。それ故、既製服時代と云う一つの共通した形態が実現しても、やはりそこには、種々の過程が存在し、発展の仕方があるのに相違ありません。我が国の場合、そうした旗印のもとに、既製服が益々製造販売されることでしょうか、それが単なる、今をときめくマスプロとマスセールと云った、時代的要求のみに応ずるものであってよいものかどうか、いささか問題が有りそうです。

既制服が、あらゆる服飾の活動に先行するアメリカにひきかえ、依然として、モードそのものを誇るのがフランスです。毎年二度行われるオートクチュール、コレクションは、大衆の衣生活に完全に隔離されたところで、百花擲乱の様相を呈します。云わば、服飾美学の祭典で有り、シンポジウムです。其処には、フランス人の持って生まれた美とエスプリに於ける観念の定着を見る気がします。衣服を如何に魅力的に着るかは、彼等にとって大切なエスプリの表現に外なりません。それは、伝統的なフランス人の精神的風土の産物であると思われれます。たとえオートクチュールが、自分たちとは縁のない高嶺の花であっても、それが彼等が日頃抱くおしゃれの、全く凝縮された典型を表現するものとして、精神的な親和感を、それこそ身近なものとして受けとめているのでしょう。彼等の既制服に対する考え方、取り入れ方が、極めて個性的なもののためと思われれます。大部分のフランス人たちが、身につけているのは、やはり既制服に相違ありません。しかし、アメリカの場合の様に、既制服が、すべてのファッションを規制しないのは、こうしたフランス人の、個性的な衣服に対する考え方が、アメリカの則物的、画一的、実利的なものの考え方と、相異しているからではないでしょうか。此処に《プレタ・ポルテ》というものが、あります。この言葉は、近年とみに、盛んに用いられ出しました。特に我が国に於ては、今や、プレタ・ポルテ時代の感があります。プレタ・ポルテは、フランスに於て、それは、明らかに、モードの転機であると、私は考えます。何故なら、それは多くのフランス国民が望んでいた結果ではなく、あくまで、オートクチュール自身の、経済的理由によるものであり、フランスモードの伝統が、経済的な理由でもって、一つの転換をなすことは、これまでの歴史に於て、あまり例がないからです。プレタ・ポルテがどの様に高級な名に於て、つまり、厳選された生地、入念な仕立、洗練されたデザインのもとに、宣伝されようと、やはり、既制服には、ちがいないのです。

そうしたやり方は、別に新らしいことではありません。アメリカに於てさえ、逸品生産としての、パターン方式もありましたが、要するに、フランスに於て、プレタ・ポルテと云うものが、出て来た事に、微妙な、ニューアンスがあると云うべきでしょう。其処には、モード界の名に於て君臨して来たオートクチュールと、既制服の關係に、何らかの接触と云ったものが見られます。例え、プレタ・ポルテそのものが、服飾史の流れの中で、全く、一つの偶発的な事象に終わったにしても、今日的な問題として、私は現在の時点に立って、このプレタ・ポルテに、興味をひかれました。

問屋街では、小僧さんまでが、既制服のちよつと上等なものを「プレ」「プレ」と呼んでおります。その榮華をうたって来た誇り高いオートクチュールの苦肉の策であったプレタ・ポルテ。唯、ため息まじりの夢にすぎなかった有名デザイナーの服を、手頃な値段であなたの元に云々。こうして生まれたプレタ・ポルテは、東洋の何処かの国の小僧さんには、プレで充分であったのです。

世界のモードをたくましく消化してゆこうとする国民のそれは、一つの象徴として、私には

見る事が出来ます。それだけに、私自身、プレタ・ポルテを正しく解明しなければならないと考えたのです。実際プレタ・ポルテから一つの結論をひき出すのは早急です。又、不可能です。プレタ・ポルテの名称が、例の東レ・プレタ・ポルテのキャンペーンによって、我国のすみずみに侵透してまだ日も浅く、人々の衣生活に著実に、エフェクトする段階にさえ至っていない様子です。だから、私はあくまでプレタ・ポルテを、先に述べました様に、現在の時点に立ち、むしろ、それを過去にてらし合せて、正確に把握したいとつとめました。いささか、総合的なものになる懸念がありますが、それも、又、致し方ないと思っています。

業種の性質上、綿密なデーターを集めることは、極めて困難でした。公の資料は、不足している、実際の生きた資料は公表を好まれないと云った訳ですが、それも、現在の場合致し方ない事でしょう。

## I. プレタ・ポルテの発祥と実際

### —主としてフランスに於ける—

プレタ・ポルテを考察するにあたって、まず既製服と云うものの概念を明らかにする必要があります。そこで高級既製服時代と騒がれる迄の初期的な既製服から検討してみる事にします。

既製服を内容的に大別すると、三つのクラスに分ける事が出来ます。(1)のブロックは昔からある街の縫製業者が、無名のデザイナーを置いて、その時々売れ筋を作り、量、質共に買い易くした、いわゆる《つるし》といわれる既製服の大衆版。(2)のブロックは、各デパートが有名、あるいは新進デザイナーの名前を打出し、そのためのコーナー等を設けて、デザイナーの名前と個性を売ろうとする既製服です。(3)のブロックは、外国のデザイナーの作品複製のもの。フランス、イタリア、アメリカなどの有名デザイナーや店と契約し、シーズン毎のモードを直輸入し、パターンを使ったり、現物をコピーしたりして、生地からデザイン、縫製とすべて、アチラそのままをモットーにした既製服です。これをもっと大衆化して、ホンモノのパリ・モードやイタリヤ・モードに手を届かせようとしたのが、新しい試みの、プレタ・ポルテ、高級既製服というわけです。

#### (i) プレタ・ポルテ発祥の背景

婦人服の流行は、パリの有名デザイナー、ピエールカルダン、クリスチャン・ディオール、等の、オートクチュールの発表によって生まれ、それを、アメリカの、各百貨店、アメリカのファッションバイヤー、又は、富豪、そして、ヨーロッパの貴族等が、高いお金を払って買いつける事によって年間約50億円という大きな経済力を持った。企業へと発展して、世界のモードを、その掌中におさめて来たのですが、今の服飾界では、その長い歴史と伝統をもつオートクチュールが危機に追込まれている、斜陽化しているという声を聞きます。オートクチュールの作品は、見た目には非常に美しく華麗であります、誰にでも着れるという機能性

もなく、しかも一着10万~20万という高値で、それを、一般化するには、独占権（その業者しか、売り出せないという権利）が高く、パターンを消化するには、むつかしすぎるという弱みを持っている事実、それに又、これまで、オートクチュールの最大の顧客は、中近東の王族や、中南米の独裁者たちや、大地主であったといわれています。ところが民族意識の高揚によって、中近東は、次々革命が起り、王族たちが、追放されました。中南米でも、独裁者は、つぎつぎと仆れ、大地主も、土地をとりあげられたり、労賃の値上げ等で、これまでのように収益がなくなってきたので、一着10万、20万もするぜいたくな服ばかりを、度々作っていられなくなりました。独占権が高値で買いきれずに、一点五百ドル（約18万円）~千ドル（約36万円）もする、オートクチュールのパターンを買って来ても、ニューヨークの目抜き通りのA百貨店では、ディオールの作品として、一点四百ドル（約18万円）で売られているのが、隣のB百貨店では、全く同じデザインで、一点五十ドル（約1万8千円）で、売られているとしたら、お客は勿論、安い値段の方を、買うのに決っています。パリの既製服組合（L' ASSOCIATION DES MAISONS FRANCAISES DE COUTURE EN GROS）を、組織して、その組合長をやっている、ランブルール社では、オートクチュールを、次の様に批判しています。

『あるオートクチュールは、私と同じ問屋から布地を買っています、それを売り出すコートは、私の社では、だいたい3万~4万5千フランのものが、オートクチュールから売り出されると30万フランなのです。私はくやしいので、それを買って、調べてみました。布地の要尺も、デザインも、たいして違いませんでした。裁断や縫製の違いですって？そんなものは、違うはずが有りません。私の会社には、パリで屈指の裁断師がいるし、縫製も、専門家が、入念にやっています。ただ名前だけなのです。名前の違いの差が、十倍の値段の開きに値いするのでしょうか。私は、断然、ノンと云いたい。こんな商売をするのは商業道徳に反している。売る人も、買う人も、そして、又それを追いかける、ジャーナリストたちも』と主張しています。

(ii) プレタ・ポルテという言葉

パリでは戦争前より、既製服は存在し、それはコンフェクション（CONFECTION）と呼ばれ、値も安く、大部分が、機械縫製された、いわゆる“つるし”イコール“安物”と、云ったものでしたが、前述の様な、背景の中で、時代もスピーディに変わって来ました。例えば、飛行機で旅行したり、或いは、パリに、二・三日しか、滞在しない人もふえ、生地を選んで、寸法を測り、幾度と仮縫をし長い時間をかけて、仕上げるというものより、すぐその場で着れる既製服、しかもそれが、古来のコンフェクションではなく、一段と洗練された材質のよき、デザインのよきかね備え、しかも用途に応じて、値段の適当な既製服への要求が、高まって来ました。パリの既製服業者のうち規模も大きく、かつ、良心的な製品を出している、ランブルール、ウェベ、クロエ、チクチネル社では、いち早くその欲求に答え、PLET（用意出来てい

る) A. PORTER (着る) 即ち、すぐ着られる様に用意されたという意味をもつ、プレタ・ポルテ = Prêt à porter と云う言葉を生み出したのです。これは在来のコンフェクションとオートクチュールとの中間的存在である高級既製服なのです。

(iii) プレタ・ポルテの繁栄

プレタ・ポルテが現在に至る迄に繁栄したのは、アメリカのバイヤー達が、高額な独占権をなかなか支払いきれないオートクチュール相手よりも、高級なパリの小オートクチュール、つまり、高級既製服デザイナー相手に切りかえたのです。その第一の理由は、独占権付きで買うのですから、街の中に同じデザインが、さまざまな価格で氾濫する事がない。第二の理由としては、プレタ・ポルテのコレクションが、オートクチュール・コレクションより二ヶ月も早い五月中旬～六月初旬にかけて行われるにもかかわらず、みごとに、それが、オートクチュールの新しい傾向を反映していると云うこと、即ち、プレタ・ポルテが、オートクチュールの普及版であると云われる所以にもとづきます。又、オシャレなパリジェンヌたちが、美しく着こなしているプレタ・ポルテの背後にあるパリ・モード界の緊密な横のつながり、縦のつながりを、見逃せません。パリに於ては、モードと云うものは、我々の思索をはるかに越えた合理主義に基づいて生まれて来るのです。オートクチュールが、年に二回の発表をもつ如く、頭先从から、足のつま先に至るまで各コレクションが、半年の期間をかけ、入念に、総合的に用意されます。そして、その傾向は、服飾界に接触する人達の間に、素早く連絡され、その傾向に沿ったモードがうち出されるわけです。だから、オートクチュールの精神を失っていないプレタ・ポルテが発表されるわけですし、それに沿ったデザインも、コンフェクションのような、規格品的なものでなく、一つの主張(デザイナーの個性のあるもの)をもったものであり、布地は、一品物でないけれども、決して安物ではなく、仕立も、コンフェクションのように機械だけに頼らず、要所、要所を手仕事で行い、販売着数も一つのデザインでほしい数十着～数百着と限られて作られる様になっています。

一概に、プレタ・ポルテと云っても、その種類は大きく三つに分けられます。(その一)は、独立したアトリエとデザイナーを持ち、一つのデザインによる着数も、一着～数着と限られたもので、オートクチュールと、一般に云うプレタ・ポルテの中間の性格を有するもの、即ち、質的に最もオートクチュールに近いもの。(その二)は、ランブルール、ウエベ、クロエ、チクチネルのように、大規模のアトリエをもち、量産を行い、国内を始め、アメリカ、ベルギー、ドイツ、イギリス等の海外へ、製品を輸出し、更に、パターンの販売、カッティング、縫製等に於ける技術提携をし、プレタ・ポルテ専門の既製服メーカーとして、商業活動をしているもの、そして、(その三)に上げられるのは、長い伝統をもつ、オートクチュリエたちのプレタ・ポルテ製作です。最初は、前述の(その一)的存在であったものもありますが、プレタ・ポルテに買手が集中し、オートクチュールが、企業として存続が危ぶまれ、又、莫大な費用がかかるオートクチュールのためのモード研究所を維持するために、<プレ

タ・ポルテ部>を併設したものに分かれ、後者二つが、一般にプレタ・ポルテと呼ばれています。

いずれの場合も、決していいかげんな既製服ではなく、プレタ・ポルテのもつ、高級既製服のニュアンスをこわさない質のよさ、仕立のよさ、デザインのよさが、全般を通じて見うけられます。プレタ・ポルテ業者が、年二回行うコレクションには、各国のバイヤー、モード専門家、ジャーナリストたちを大勢招き、厳格な批評眼の中で、半年の期間をかけて用意されたより抜きの百着~百五十着の作品が、発表され、その場で取り引きが行われるのですから、プレタ・ポルテ業者にとっては勝負の分岐点であり、真剣そのものです。業者合同ショー、各店別ショー等と、数度にわたってコレクションは行われ、一つのコレクションに何万ドルという金額をかけ、しかも、それが企業として立派に成長し、現在に至る繁栄を見るのですから、プレタ・ポルテが欧米に於ては、如何に消費者に食い込んでいるかが、推測されます。

## II. 我国に於けるプレタ・ポルテ

我国に於て、プレタ・ポルテに該当する既製服は、ずっと以前から存在していました。しかし、それが極く限られた人達の間でしか知られておらず、販売方法も消極的なものでした。プレタ・ポルテという言葉が、短期間のうちに全国いたるところまで浸透したのは、1963年春に東洋レーヨンが発表した「東レ・プレタ・ポルテ」で、と思われまゝ。東レ・プレタ・ポルテはフランスのデザイナー・イブ・サン・ローランと技術提携し、独自の原型と素材、縫製により製品化されましたが、サイズの不備、素材が合織に限られている事に対する不満さで、既製服として広く一般に利用されるまでに行かなかつたが、東洋レーヨン得意の総合キャンペーンで、プレタ・ポルテという言葉が、あっという間に広めました。そして在来の既製服業者を奮起させ、既製服の高級化に尽力しています。我国に於ける既製服の普及は、とりもなおさずプレタ・ポルテの発展を左右するものです。その問題点を、一般消費者の欲求を基にして (i) サイズ (ii) 対象 (iii) 特性について、考えてゆきたいと思います。

### (i) サイズについて

欧米のオシャレなレディ達の90%は既製服を着ていると云われております。我国でも今後ますます職業婦人がふえる可能性を考える時、生地を選んで寸法を測り、仮縫し、長い時間かかって仕上げるというオーダーでは間に合わなくなり、働き着、通勤着に適した、その上値段の余り高値でない婦人既製服の需要は、ふえると考えられます。

表1、表2を比較すると、女児服ではその差は余り見られないが、婦人服となると大きな落差があらわれています。総額では1:44となり、その中でも最も落差の激しいのは、ドレスです。米国の生産高がスーツを含めて187百万ドルに達しているのに、日本では、わずか18百万ドルにすぎません。即ち100:1の比です。米ドルの繊維品での価値を半分と見ても、米国の婦

表 1 日本婦人既製の生産 (1960年)

品 目	価 額・百万円	換算ドル・百万ドル	比 率 %
スーツ, ワンピース	6.410	17.8	20.2
オ ー バ ー	6.683	18.6	21.2
上衣, ジャンパー	1.408	3.9	4.5
ブ ラ ウ ス	4.793	13.3	15.1
ス カ ー ト	2.141	5.9	6.8
ス ラ ッ ク ス	2.244	6.2	7.0
レ イ ン コ ー ト	2.654	7.4	8.4
和 装 コ ー ト	4.936	13.7	15.6
そ の 他	390	1.1	1.2
計	31.661	89.9	100.00
女 児 服	11.455	31.9	婦人服の36%

(注) 価額は潰し出し値基準, 繊維月報より

表 2 米国婦人既製の生産 (1960年)

品 目	価 額, 百万ドル	比 率 %
ド レ ス(一枚売り)	1.296.5	34.8
ド レ ス(ダース売り)	327.3	8.8
ブ ラ ウ ス	368.6	9.9
コ ー ト	494.1	13.3
スカート・ジャケット	183.6	4.9
ニ ッ ト 外 衣	266.4	7.1
制 服・作 業 衣	60.0	1.6
そ の 他	357.1	9.7
計	3.722.2	100.00
女 児 服	316.5	婦人服の8%

(注) 価額は潰し出し値基準, 繊維月報より

人服の普及には、ほど遠い事がわかります。それが特に体にフィットしているドレスである事、ここに問題があります。逆に云えば、日本の既製の発展をはばむ要素を取り除けば、現状より数倍伸びると云う事です。“デザインもよい、材質もよい、柄もよい、しかしサイズが合わない”という声を聞きます。上衣、ジャケット、コート類では、余り問題ではないのですが、体にフィットするドレスでは、体にぴったり合うサイズ、これが必要となってくるのです。日本婦人の体格を色々なサイズの範囲にまとめ、規格化し、それを既製にとり入れる事こそ、在来の既製の伸び悩みの弱点であり、既製の普及を促進する時代的要請だと思ふのです。既製メーカーが共通したサイズの組合せをもっておれば、いちいち測ったり、照し合せたりする手間がはぶけ、買う方にとっても容易に自分の体に合ったものを見つけ出す事が出来ます。JIS 制定により、既製のサイズの統一がはかられようとしています、全部を統一するには、まだまだ時間のかかる仕事です。このサイズの問題にいち早く目を向け、それを解決しようとしているのが、レナウンのプレタ・ポルテ (レナウン・ルック) です。現在日本で

プレタ・ポルテとして売り出しているデザイン・パターンの多くは、フランスのオートクチュール式で、特定の婦人の体型に合わせてデザインされたもので、余りサイズの組合せがないが、レナウン・ルックのデザインパターンは、アメリカ式で、米国既製服業界五十年の経験をもとに数多くの女性の体型を電子計算機を利用して調査、分類し、サイズごとにいくつものパ

表 3 RENOWN STANDARD MEASUREMENT (BAREME...Cm)

JULY, IST 1963

サイズ	後肩巾	袖 丈	バスト	ウエスト	ヒップ	背 丈	スカート 丈	着 丈	コートの 着丈
5	36.5	51.0	82.5	56.0	88.0	36.5	56.5	93.0	94.0
7	37.0	52.0	85.0	58.5	90.5	37.0	59.0	96.0	97.0
9	37.5	53.0	87.5	61.0	93.0	37.5	61.5	99.0	100.0
11	38.0	54.0	90.0	63.5	95.5	38.0	61.5	99.5	100.5
13	38.5	55.0	94.0	67.5	99.5	38.5	64.0	102.5	103.5
15	39.0	56.0	98.0	71.5	103.5	39.0	64.0	103.0	104.0
17	39.5	57.0	102.0	75.5	107.5	39.5	66.5	106.0	107.0

ターンを作るベーシック・パターン方式を採用しているのです、誰にでも好みのデザインのものが、しかも、体にぴったりのもものが、すぐその場で着れると云う事になりました。レナウンが発表したサイズ（表3）は7サイズで、この範囲の中で自分のサイズを見い出せばよいのです。四百メートル競走のトラックで、内側を走行するのと、外側を走行するのとでは、少々距離が違いますが、四百メートルのトラックをまわった事には、相違ありません。このサイズの組合せには、その様な余裕が含まれています。サイズに広がりをもつ、プレタ・ポルテは、需要者に便宜を与え、広く愛用される重要な一つの要素と云えます。

(ii) 対象について

①生活程度別

一般消費者のプレタ・ポルテに対する認知は、とりもなおさずおしゃれな服装への関心のあらわれと云えます。おしゃれな服装への関心を規定するものは、まず第一に経済的条件が上げられます。表4に示す様に経済的条件に階層を作り、生活程度別におしゃれに対する関心度を見ると、表5のグラフとなります。

その結果、現在に於ては何にましてもおしゃれは、経済的要因に左右されていると云ってよく、生活程度が中の層以下の人達のおしゃれの関心は、やや実用的なものがピークを示しており、中の層から上の層のピークは、ややおしゃれとなっております。全層を通じておしゃれに関心があるという消費性向をもっていると云えましょう。

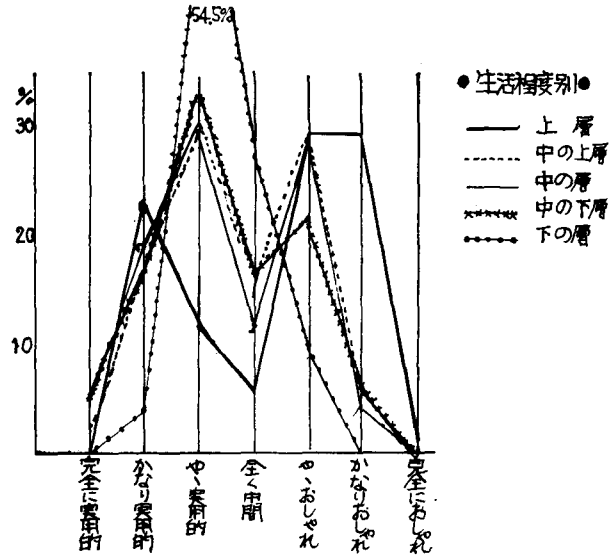
古くから日本の女性像として、「保守的」であること、「儉約家」であること、と云う觀念が存在していました。しかし、敗戦によって、それらは無慙にも打ちくだかれ、急激な欧米化が始まりました。それは女性から人間への解放とも表現出来ます。今迄の保守的に代って「進歩的」になり、何もかも犠牲にしていた儉約にかわって「合理的」になり時には革命的でさえ



表 5

表 4

階 層	1 人 当 り 1 カ 月 の 支 出
上	10,000円～
中 上	8,000～11,000
中	7,000～9,000
中 下	6,000～8,000
下	7,000～



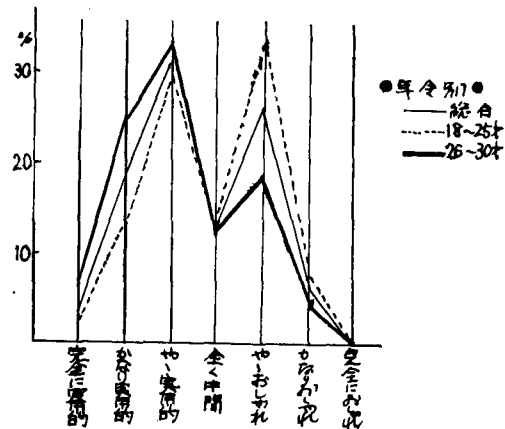
有ります。要するに生活をエンジョイする傾向が顕著になって来たわけです。

②年令別，職業別

現在の若い女性（特にハイチーン）たちは、毎日毎日の強力なマス・メディアによる刺激によって「より新しいもの」「より美しいもの」へ抵抗を感じずして合理的に消化している様です。それらの享樂的ときえ思われる現象の奥には、常に美しくありたいという願望の存在を見逃せません。表 6 で示される様に年代的

に考えて見ると、25才以下はおしゃれの傾向が強く、25才以上は、おしゃれというよりむしろ実用的な傾向が強い。このことは25才以下は戦後派であり、学生、BG、或いは結婚を目前にひかえて、おしゃれを余儀なくしている層であり、25才以上は、大部分が主婦であり、家庭にウエイトをおいている事が起因していると推測されます。更にこれを職業別に表7に見ると、BG、主婦はおしゃれと実用的とが半々で、主婦が実用へ指向する傾向が少し強いと思われ

表 6



ます。おしゃれに対してかなり高い関心を示しているのが、学生か無職の人達です。

以上対象を生活程度別，年令別，職業別に分けて、おしゃれに対する関心度を考察して来ましたが、その結果考えられる事は、おしゃれにかなり高度な関心を持ち、ほしいものを購入す

る経済条件をそなえ、更に、それらを選択する能力を有している層即ち、おしゃれの対象というのは、25才以下で、生活程度が中の上層に位する学生か無職の人たちという事になります。

この層は、経済的余裕、時間的余裕に恵まれ、又知識源が豊富であることや、年令的にもより合理的、より革新的な性向をもつ人達で形成されているといえます。プレタ・ポルテ発表後の販売状況を見ますと、在来の既製服にはおよそ縁の薄かったこの層、即ち、すねかじりの層が、よい買主であるという事は、たぐみな販売ポリシーと云えます。一般消費者のおしゃれ

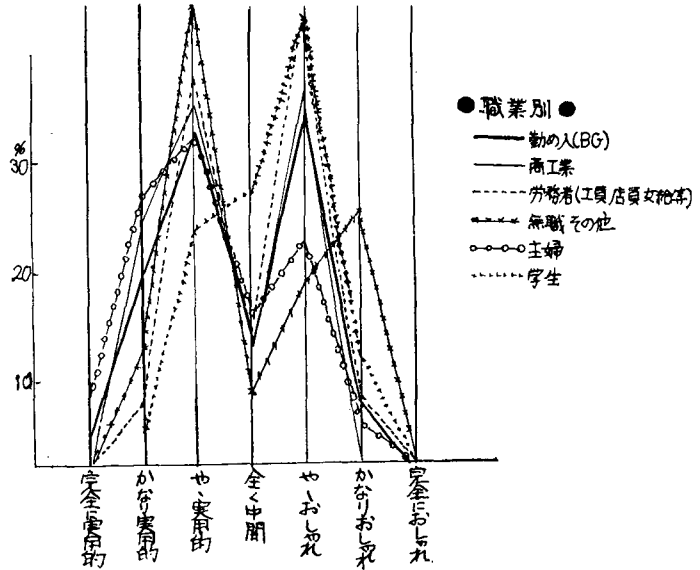
に対する関心が高まるに従って、プレタ・ポルテの対象も広まり、同時に、在来の既製服の粗悪さが問題とされ、プレタ・ポルテ発表を一つの契機に既製服の質の向上が促進され、服飾に対する正しい審美眼が一般消費者に養われるでしょう。

### (iii) 特性について

見えないところに手間をかけなければ、よいものが出来ない。という洋服の原則をあらゆる面で打ち出しているのがプレタ・ポルテです。オートクチュールの様に、一人のためにデザインし、パターンをおこし、長い時間をかけて仕上げるといったぜいたくさはないにしろ、ほしい時にすぐその場で自分の気に入ったデザインで、しかも、自分のサイズに合ったものが選べるのですから、待つ事の嫌いな現代人の感覚にぴったりです。そのデザインの傾向は、年によって少なからず変動が見られますが、とりもなおさずシックと云えます。例えば、色調の基本といわれる黒等の落ちついたダークな色調に全体をまとめ、多彩な赤や、ブルー、ピンク、オレンジなどで華やかさを添えています。シルエットは女性的でエレガントなもの、着こなしにより若さの表現出来るシンプルなもの、大部分が代表され、エレガントな要素には、しなやかで細っそりしたウエスト・ラインの曲線の強調が多く見られます。見た目には、何気ないデザインでも、じっくり見ると、細かい部分に味があり、人々の批評に耐えうるエスプリがあり、それが奥ゆかしさを感じさせます。

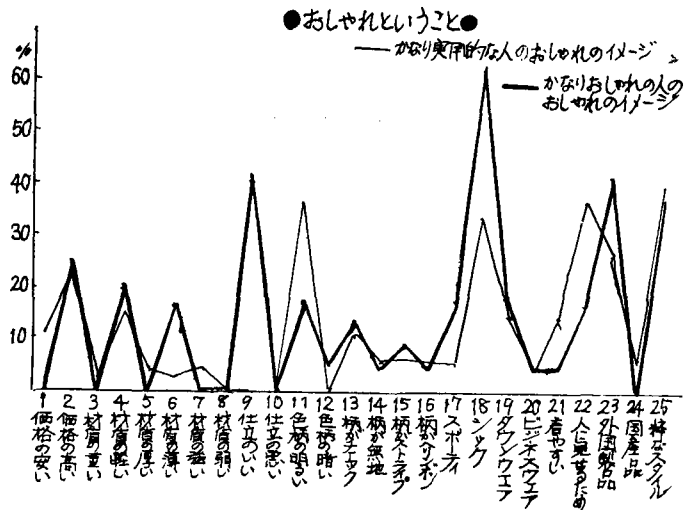
おしゃれという事に関して、どんな点にポイントをおいているかを、かなり実用的な人と、かなりおしゃれな人に分けて考察して見ると、表8に示される様に、かなり実用的な人のおしゃ

表 7



れについては、仕立のよ  
 さ、色柄の明るさ、人に見せるため、粋な感覚を  
 とり上げているのに対し  
 て、かなりおしゃれな人  
 は、仕立のよさ、シック  
 さや粋の感覚で、外国製  
 をとり上げています。そ  
 の結果一般的に実用的な  
 人にとっておしゃれは、  
 目立つ事が主眼であるの  
 に対して、おしゃれな人  
 のおしゃれは、内面的な

表 8



深さ、広がり、換言すれば、奥ゆかしさに該当する要素を問題としていると云えます。その点、プレタ・ポルテは、それらの要素を含蓄していると云えましょう。

以上の事情の下で、日本人のオシャレに対する態度は、欧米のその様に、だんだんと地についたものとなって来たと云えます。今や、既製服時代なのです。そうなるうとしている時代的風潮の中に有って、前述の様な要素をかね備えたプレタ・ポルテの伸展への期待は、各方面から、希望的観測をもって、見まもられています。

(注) 表4～表8は、1962年 Jafca が実施したマーケティング・リサーチの結果である。

### III 服飾史に於ける、プレタ・ポルテのもつ意義

#### (i) 服飾史を形成するもの

束の間に消えてゆく流行のモード、それ自体、果して服飾史の流れに何ら価値ある足跡を残すことがないと云えるかどうか。

他の芸術作品、いわゆる造型芸術、音楽、文学、映画、そして演劇までもが、その創造発想としての作品として後世に残り、時代を超越して人々に親まれることを考えても、服飾のもつ泡沫的な生命は、宿命的と云うより他ありません。人がそれを着て、更に生活して始めて服飾の美が存在するのですから、もはや、人に着られず、唯、服飾史のノートに一枚の写真となって残っても、其処には作品自体の生命は、今日的な意味を何一つ見出すことが出来ません。デザイナーにとって、まことに哀れと云うべきです。しかし、これを哀れと考えているデザイナーは、一人とていないでしょう。無論、服飾と云うものに対する美的な観念の伝導によって、その哀れの見方も異って来るでしょうが、少なくとも我々人間の大部分が服飾の美に生活のポイントをおいているのではなく、それを着て生活しているにすぎないのです。生活そのもの

が人間の主体で、その生活に必要で、しかも生活を営む人間に如何に調和させ、親和させるかが、服飾の指向する不変の命題なのです。

時は人間の生活に変化を生じます。服飾はその変化に対して超越することは出来ません。宿命と書きましたが、それは宿命ではなく、特質と云うべきでしょう。現代の形を最も具体的に表現せねばならないのです。芸術作品が第三者に観念の強迫を課すことが有りますが、服飾の場合、観念の入る隙間さえありません。現実になんか着るのが第三者であるから、そのモードが人々の間に流行を呼ぶためには、極めて非情な、冷徹な現代の形が絶対条件となるのです。現在の推移は現代の形を変えます。昨日の形は、もはや完全に過去のものであります。此処に、一つの挿話があります。“モードとは、かくもしばしば変らなければならぬために、かくも醜いのであろうか”これは皮肉屋で有名な英国のバーナード・ショーの言葉ですが、モードそのものの本質の一面に於て、痛烈に諷刺しています。しかし、フランスの詩人で亡くなってまだ日も浅いジャン・コクトーは、次の様に云っています。“モードとは、感動的なものである。何故ならば、モードは、それがまだ若くて美しいうちに、人に惜しまれつつ、姿を消してしまふから”。西武デパートのファッション・コンサルタントでパリに駐在している堤邦子女史は、この二つの言葉を面白くと、最近何かの雑誌で書いておられましたが、いろいろと考えさせられる二つの言葉です。たちまちのうちに醜いものとなるであろうモードは、その出現時に於いて、人々の束の間の感動を誘致するのです。そこには、そのモードと、それを創り出す人と、それを受けとめる人との間の極めて純度の高い張りつめた緊張の一瞬が、存在するのであります。モードの歴史は、実にその一瞬の想像も出来ぬ緻密な堆積に他なりません。そしてそれらのモードは、他の大きな社会的、文化的、科学的、経済的、政治的な現象の影響と圧力につつまれながら、絶えず変化してゆくのです。つまり、モードは、それ自体歴史的なものなのです。プレタ・ポルテは、それらのモード界に影響をおよぼす他の諸々の巨大な要素とはその性質に於て、まるで比較にならぬ特異性を持っています。戦争はモードを変えると云われる。その戦争でさえ、プレタ・ポルテのもつ服飾史に於ける測りしれぬ劃期性には、到底及ばぬものと思われまふ。何故なら、仮りに戦争がモードをかえると云っても、それはスタイリング面に於てであって、造型的な問題をはなれて、服飾全体の流れを、変える事など出来ないからであります。

(ii) プレタ・ポルテが決定づけたもの

プレタ・ポルテが、どうして服飾界の変革をきたす程の要因を内含しているか、どの点で、プレタ・ポルテはモードの歴史に劃期的なものであるか、私は次の様に要約してみました。

1. プレタ・ポルテがオートクチュールを頂点とする服飾界自身のなまなましい胎内から排出されたものであること。
2. それはオートクチュールの自己崩壊を意味すること。
3. 既製服時代到来の観念を決定づけたこと。

4. マーケット・リサーチと云う企業としての時代的要求に敏感に反応していること。
5. 人体工学的立場から、人体のサイズに科学的なメスを入れ、既製服のサイズの問題点を具体化したこと。
6. デザイナーのアート・ディレクター化を促がしたこと。
7. 所謂、デパート、ファッションを特徴づけたこと。
8. 服飾に科学をもちこんだこと。それは将来に服飾に於ける理論体系を確立させる希望を抱かせること。

大体、以上の様になります。無論、フランスと日本とでは、服飾史に於ける意義の質と量に随分の相異があることは当然です。何故ならば、日本の場合、フランスの服飾界のやむにやまれぬ結果としてのプレタ・ポルテと全然ちがった基盤の上に受け継いだ、つまり移植したにすぎないからです。我国には、フランスに於けるオートクチュールの様なものは存在しません。その輝かしい誇りに充ちた栄光と権威は、フランスのみが持ち得た伝統です。だから、プレタ・ポルテが、現代史を特徴づける植民地主義の後退、民族独立という社会的、政治的、経済的時代の要請を背景とするオートクチュールのかつての巨大な、経済的基盤瓦解の結果生じたことを考える時、私はそのオートクチュール崩壊の一事をとっても、それは極めて劃期的な意味を、服飾史に残すのではないかと思います。プレタ・ポルテとして華々しく、その門出は新鮮な話題を世界に提供していますが、その裏には、こうしたオートクチュールの悲劇的な事態が有り、この現実を眺めるフランス人自身の心構えは、私たちの想像を、はるかに絶するものでしょう。

高級既製服の伝統のない我国に、このプレタ・ポルテは、高級の名に於いて、従来の既製服に対する反動の様な形で、当初入って来たのですが、結果的には、既製服を服飾の主体とするために、決定的な役割りを果たしたことになります。マーケット・リサーチは、云うまでもなく、近代企業の中で最もクローズアップされている経営戦略の、有効な手段の一つですが、プレタ・ポルテの今後のあり方に、マーケット・リサーチは、絶対にかかせない大きな影響力を持つにちがいありません。そして、少くとも、現在に於てサイズの規制と云う、これまでの既製服の盲点とされていた問題を明るみに出しています。6.のデパート・ファッションとは、服飾界に於けるデパートの地位が、近年極度に高くなり、その資本力にまかせて、我国のファッション地図を急速に塗り変えつつある実情を表現した言葉です。販売経路にすぎなかったこれまでのデパートは、今や完全に企画、製造、販売と云った一貫システムを採用しております。プレタ・ポルテは、その様なやり方に完全にマッチするのです。何はともあれ、高級なイメージを拡充するために、まず、フランスの有名なデザイナーの名前をかつぎ出すのが一番と、デパートは、こぞって莫大な権利と代償に、彼等と契約を結んだのです。(表9参照)

日本のデパートは、今や彼等のパトロンの一となり得たのです。同時にそれは、デザイナーの仕事の領域を変えつつあります。デザイン・ソースを探求し、それを表現すると云う職分

の本質は一定していますが、その巾はこれまでのデザイナーとは比較にならぬ程拡大され多様化しています。其処にはあらゆるものを集約し、統合し、弁別する能力、即ち、現代を総合的に認識し、それを組み立てる能力が、要求されます。最早や、一人の王族の貴婦人の服のために、夢を描くのではないのです。この様にデザイナーの新らしい方向に、プレタ・ポルテは大きく働きかけています。

こうして考えて来ますと、オートクチュールの崩壊を境に、服飾の世界にも社会科学が導入された事が痛感されます。それ故にこ

れまでの服飾観が、近い将来、完全に過去のものとなる事が予測出来ます。例えば、服飾デザインが、他のデザイン分野に比較して一つの確固たる理論体系を持っていなかったことは衆知の通りです。昨今、東京で開られた世界デザイン会議に、服飾界の参加が許されなかったと云うのも、実は、その辺に理由が存在する様です。

こうした意味で服飾は、現在黎明期を迎えたのではないのでしょうか。それに大きく貢献しているのが、プレタ・ポルテなのです。少くともデザインに於て、理論体系が確立した時には、人間の衣生活に影響を与えぬはずが有りません。プレタ・ポルテそのものが、どう云う結果に終わろうともその果した功績と意義は大きく、それは服飾史を彩る劃期的なものとなるでしょう。

## 結 び

プレタ・ポルテに対する一つの解答が何らかの形で出るのは、そう遠いことではないでしょう。そしてその解答の如何によって更に、その解答に対する処置の如何によって、今後のプレタ・ポルテが決定づけられるのは確かです。

色々の問題が残されています。サイズ、デザイン、価格、感覚のこと。つまり、それを何の抵抗もなく着てみる事が出来るかどうかの感覚も決して小さい問題とは云えません。しかし、何といっても我国に於ては、フランスのオートクチュールに類似するものが不在であると同時に、アメリカの様に既製の基礎さえ確固たるものとなっていない実情を考えねばならないのです。私たちは、既製服に飽きているのではありません。既製服を着つくした後で、何かちょっといいものを着てみたいと考えているのではありません。私達は、これから、既製服を着ようとしているのです。あらゆる面に於て既製の長所、短所を知りつくしたいと思っているのです。その様な時に、果して、プレタ・ポルテはどこまで私たちの興味と関心と欲望を

表 9

百貨店名	契約先
西 武	ルイ フェロー, ランプルール社
伊 勢 丹	ピエール・バルマン
松 屋	ジャンヌ・ランバン
白 木 屋	マギー・ルフ
小 田 急	ジャック・エイム
東 横	ジャック・グリフ
高 島 屋	ピエール, カルダン
松 坂 屋	ニナ, リッチ
大 丸	デオール
三 越	ギィ・ラロッシュ

刺激することが出来るかどうか、私としては疑問を抱かずにはおれません。日本の服飾業界は、プレタ・ポルテを育てるには、余りにも軟弱であり、それが生まれなければならない絶対的条件に欠けている様に思われます。必然性が稀薄なのです。既製服がまず私たちのものとなるべきです。その後で、既製服の概念を塗り変えるべきものとして、プレタ・ポルテが、私たちの前に印象も鮮やかに登場すべきではないのでしょうか。それが現実には、我国の既製服時代突入の文字通りのイニシアティブを取ったと云うことは、実に皮肉と云うより他ありません。しかし、それだけに私たちはプレタ・ポルテを正しく理解する必要があるのではないのでしょうか。プレタ・ポルテという言葉が、服飾界全体を支配したと、後世の歴史家が記すためにも、私たちはこの時代に在って、そうあるべきなのです。少くとも、私はそのことに務めたつもりです。こうして、この一文を記す事が出来たのも、メーカー、その他の人たちの親切なアドバイス、正確に云えば暗示のあった事を忘れる事ができません、感謝いたします。

1964年12月20日

(本学助手 被服工作(洋))